

夏休み

「匠に学ぶ房州うちわ作り」



房州うちわの歴史

関東でうちわ作りが始まったのは江戸時代。当時房州は材料の竹を送り出す産地でした。明治時代に東京から房州に職工を雇いうちわの生産を始めました。

大正12年の関東大震災で大火に見舞われた日本橋のうちわ問屋が房州に移住し房州うちわの生産が拡大しました。平成15年に経済産業大臣指定伝統的工芸品に認定されました。

日時

7月29日(土)・8月5日(土)

8月19日(土)・8月26日(土)

①12:30~14:00 ②14:30~16:00

参加料

1本3000円

募集数

各回10名

体験場所

“渚の駅” たてやま レクチャールーム (館山市館山1564-1)

お申込み方法

- ・お電話又はFAXでのお申込みになります。
- ・体験日前日正午までの受付になります。
- ・お電話・FAXにて、体験する方のお名前・年齢(学年)・住所・ご連絡先及び当日ご連絡が取れるご連絡先(携帯電話等)をお知らせ下さい。
- ・平日午前みの受付になります。外出している場合がありますので、留守番電話にお名前と連絡先(電話番号)をお残し下さい。その際、電話番号をゆっくりお残し下さい。折り返しお電話いたします。

お申込み先

また旅倶楽部 ☎0470-28-5086・FAX0470-28-5087

体験内容

房州うちわは21工程で作られています。すべて手作業、職人の伝統の技です。今回の体験では、⑩貼りといわれる、うちわの骨に紙や布を貼る工程と、⑫断裁・⑬へり付けの工程を体験します。



・細い竹を細かく割く工程です。40本程から多いものでは60本以上に割っていきます。

⑤割竹



・うちわの骨を糸で編む工程です。骨を左右交互に取りながら編み、円形の竹の骨を平面にしていきます。

⑧編竹



・弓竹を使って房州うちわの特徴である窓を作る工程です。骨を広げて糸を弓竹の両端に結んで糸に張りを持たせ、糸が作る曲線を整えます。

⑫窓作り



・うちわの骨に紙や布を貼る工程です。刷毛を使って骨全体に糊を薄く塗り、骨の間隔を均一に整えながら空気が入らないように貼ります。

⑩貼り

問合せ先

また旅倶楽部

☎0470-28-5086

※平日午前みの対応になります。また外出している場合がございますので、ご了承下さい。

後援

房州うちわ振興協議会

☎0470-22-3362(館山市役所内)

☎0470-33-1092(南房総市役所内)